



第 38 号

調 布 市 文 化 協 会

調布市小島町 2-33-1 調布市文化会館たづくり 6 F

調布市文化協会「創立四十年」

…これから

調布市文化協会 会長 高岡 宮子

平成十八年九月九日、調布市文化協会創立四十年「記念式典」「記念公演」「祝賀会」が加盟十二団体一丸となつて盛況裡に行われ、さらに「記念誌」も発行しました。

この記念事業費捻出のためバザーを開催しましたが、数日間の寄付品や寄付金受け期間中には加盟団体ごと・個人でと続々と金品が届けられ、目標を大幅に上回る額となりました。

この記念事業を成し遂げるための、バザーの企画や実践する善意の力は、まさに文化協会四十年の歴史を持つ組織力の充実が物語っているものと自負してやまない次第です。

しかしながら、文化協会創立四十周年を迎えても、今後「文化協会はどうすればいいのか」「調布市では文化協会の存在をどの様に理解しているのか」会長として複雑な思いでいました。

文化協会の所管は生活文化部、補助金の所管は教育部社会教育課ですが、折しも会長に就任した平成十四年「調布市社会教育関係団体補助金交付取扱基準」が適用され、この内容は事業費とみなされる物に適用し、さらに補助対象経費の二分の一以内の額であり、その上同一事業に対する補助は三年を限度とし、以後毎年20%減額していくものとするものでした。

この取扱基準により平成十七年より20%減額が適用され、さらに今年度は僅か30万円・加盟団体

よりの年会費の半額にも満たない額での活動を強いられてきました。

この五年間、文化協会所管との協議を行ってききましたが、妙案もなく・理解も得られず・活動費が確保できない状況では「文化協会解散」の方向で検討すると役員会の総意を所管に伝えました。

平成十八年十一月二十九日、

*文化協会活動費（補助金）の所管を生活文化部に移行する。

*以後この活動費（補助金）は「交付金」の名目で執行する。

所管の生活文化部部長と次長が文化協会室へ出て向いての「英断発表」です。

〔調布市文化協会・今後の在り方〕

紆余曲折を経てここに寛大な理解が得られましたが、過去四十年の自主運営による文化活動をさらに充実させ、調布市行政に代わって今にも増した事業展開を進めるために、加盟団体がより強固に組織化をはかり、率先してこの事業展開を担っていかねければと覚悟しておく必要があります。

また文化協会規模の拡大と共に占有の事務員を雇用し、調布市民文化生活の向上に邁進していく所存です。

最後にこの「英断発表」までの長い間、陰ながらご理解・ご支援いただきました多くの関係者の皆様に有り難く厚く御礼申し上げます。

文化協会創立40周年

「記念式典」

平成18年9月9日(土)

於文化会館たづくりくすのきホール 午後3時～4時

「記念公演」

於文化会館たづくりくすのきホール 午後4時～5時

『管楽アンサンブル演奏会』

出演・桐朋学園大学音楽学部

「祝賀会」

於文化会館たづくり12階大会議場 午後5時30分～7時30分



文化協会創立40周年

記念事業を終えて

実行委員長 海老澤 勇

平成18年9月9日の調布市文化協会創立40周年「記念式典」「記念公演」「祝賀会」に際しまして、行政ならびに関連機関の皆様、そして文化協会加盟団体会員の皆様の多大なるご支援ご協力をいただき、無事に終了できましたことを深く御礼申し上げます。

6月30日の第一回理事会で、正式に創立40周年記念事業の実施に向けてのプログラムが承認されスタートいたしました。

7月 35周年記念当時の記録ファイルを参照し且つ経験豊かな高岡会長の適切な指導のもと、事務局各役員がそれぞれの業務を分担、そして相互支援の体制を組んで同時並行の作業が一挙に始まりました。

7月30日、チャリテイバザーが開催されました。その折には大勢の会員の皆さんより沢山の寄付物

品をいただき収納場所を借りて保管するほどでした。また、多額の寄付金をいただきました。

当日炎天下でテントの設営から長時間にわたりバザーのお手伝い下さった理事の皆様など、数多くの方々の熱意と善意溢れるご協力のもと、目標額を大幅に上回る事ができました。この収益金は記念事業と一部は文化事業基金積立に、調布市へのチャリテイにと有意義に活用させていただきます。

9月9日の式典当日には、文化協会理事の皆さん全員が、会場の方々のお役目を積極的に引受け、又、行政の方々のご協力を得てお蔭をもちまして順調に進行することができました。

今回の創立40周年事業を通じて皆様からいただきました幾多のご厚意とご支援に、あらためてお礼を申し上げます。有難うございました。

創立40周年チャリテイバザーは7月30日市役所前庭で実施されました。

寄付物品(一四六六点)
売上げ金額 三〇〇、七五〇円
寄付金(三四件)

二二三、三八六円
合計金額 五三四、一三六円
ご協力有難うございました。

「創立四〇周年記念特別号」は加藤副会長の統括の下、九月九日に発行することが出来ました。

先人達が公民館や各地の地域センターに向いて、「文化の出前」としてそれぞれの分野を指導し、各地に多くのサークルがつくられていった歴史をひもとくことが出来ました。また各加盟団体よりご寄稿をいただき活動の現状、将来への夢などを語っていただきました。有難うございました。

特別功労賞及び感謝状贈呈者

各団体で永年活動し、功績が認められる方を、各団体が十分に協議の上、推薦していただきました。また、連代義明氏、市川徹氏、大山雅子氏の三氏は、永きに亘り文化協会の会長、副会長、役員を務められ、文化協会の充実・発展に多大な貢献をされました。その功績に対し特別功労賞を贈呈いたしました。

☆特別功労賞

連代 義明 吟剣詩舞道連盟

市川 徹 民謡連盟

大山 雅子 工芸美術協会

☆感謝状（五十音順）

井坂 糸子 三曲協会

泉 梅信 社交ダンス連盟

岩村 久雄 演劇協会

遠藤 徳雄 美術協会

大滝 明 美術協会

角田 幸子 工芸美術協会

神成 清策 民謡連盟

小泉 治子 民謡舞踊好友会

小松 欽 美術協会

斉藤 良江 民謡舞踊好友会

桜井 進 吟剣詩舞道連盟

佐藤 充子 フラワーデザイン協会

嶋崎美代子 茶華道連盟

下平 静子 フラワーデザイン協会

高井 彬 アマチュア囲碁連盟

田中 稲至 美術協会

田中 久子 民謡舞踊好友会

中島 司郎 歌謡同好会連盟

藤井 幸子 民謡舞踊好友会

前島 隆宇 美術協会

特別功労賞をいただいで

大山雅子

文化協会創立40周年の記念すべき時に、特別功労賞と言う名譽ある賞をいただいた事は、大変嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。想い返せば、昭和54年事務局会計として係わったのが始めてでした。当時次第に力をつけて来た文化協会が、活動の柱の一つとして文化の出前事業を手がけた時でした。

そして現在他県との文化交流

流の中でも、しっかりした組織を持ち自立した活動をしている調布の文化協会は、とても素晴らしいと思います。大きく根を張って調布の街に根付いた文化の樹は、これから大きく育って行くこと信じております。

この様な協会に多少とも係わりを持ってた事を心より誇りに思っております。ありがとうございました。

感謝状をいただいで

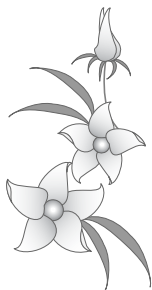
桜井 進

調布市文化協会も大きな節目の創立四十年を迎え、立派な記念事業を、無事開催された事、心からお慶び申し上げます。私も平成十年より五年間役員の一員として運営の一端を担って参りましたが、今回感謝状を戴き、心より御礼申し上げます。

諸先輩の皆様のご苦勞による基礎が作られ、今日が有ります。しかし、社会情勢に対応しつつ頑張つて来られたと思います。

市の財政の厳しさの影響を受け、協会の運営も苦しいと聞いておりますが、高齢化社会を迎え、生涯学習の重要性が叫ばれ、協会の役割も益々期待されて参ります。

市の文化、芸術の発展に、会長さんを始め役員の方のご活躍を心からお祈り申し上げます。



第51回調布市民文化祭は、右記のテーマと期間で開かれました。参加団体は文化協会加盟22団体応募6団体と、東部・北部・西部の3公民館地域文化祭（10月28日(土)〜11月5日(日)）が各会場で熱心に趣向をこらしての参加でした。

特に今年は、アート&ミュー

第51回 調布市民文化祭 『文化がつなぐ 心と心』

2006年10月12日(木)～
11月12日(日)

(文化祭プラザ
10月14日(土)～15日(日)
於調布市役所前庭)

開会式アトラクション

合田桃子タンゴ楽団
“合田桃子タンゴの夕べ”



西部地域文化祭



北部地域文化祭



バレエフェスティバル (洋舞協会)



文化祭プラザ



絵画展 (美術協会)



囲碁大会 (アマチュア囲碁連盟)

ジツクが新しく応募団体として加わり、市民文化の輪がまた一つ大きくなりました。文化祭、ブラザもハワイアンフラ協会によるフラダンス・タヒチダンスが好評で参加者が増えました。

出演者、出展者数、市民参加数はそれぞれに増減はあるものの、ほぼ前年並、観覧者数は発表部門二二七名増、展覧展示部門一五〇三名増と良い方向です。

財団はじめ関係の方々となり、今後一層頑張つて参りたいと思っております。

調布市民文化祭に寄せて

調布市文化・コミュニティ

振興財団事業課 岡野政博

今回、初の担当として、第51回調布市民文化祭に参加し、無事に事業を終えることができて胸を撫で下ろしています。

不慣れな担当を実行委員長はじめ役員の方々に助けていただき、感謝申し上げますとともに、51年間培ってきた組織力を感じずにはいられませんでした。



東部地域文化祭

特に文化祭プラザでは、ハワイアンフラ協会の素晴らしいパフォーマンスで大いに盛り上がり、会場を訪れた方々に好評を得るなど文化祭のPRの場となりました。毎年市民文化祭で発表される内容のレベルの高さと関係団体のみなさんが協力して実施されてきたことに敬意を表すとともに、今後、文化祭が益々ご発展することを祈念いたします。



音楽祭（音楽連盟）



お茶会（茶華道連盟）



三ヶ所の定点会場では各団体の踊りも一段と拍車がかかり多くの観衆にアピールする踊りが見られました。

文化協会

も「かき氷」の売店を出して観衆の皆様は暑気払いと喉の乾きを潤いました。

調布よさこい祭

日時 平成18年8月27日（日）

午前11時～午後7時

会場 旧甲州街道

（調布・布田）

ちようふだぞう会場

おもしろ企画会場

ハッピーまつり会場

8月末の暑い日で旧甲州街道を使つての「よさこい踊り」の流し踊りを趣向をこらした団体連が激しく楽しく踊りました。

研修・交流旅行

静岡市文化協会との交流

文化協会副会長

加藤之郭

今年の研修旅行は、海と山・伝説と歴史の地・静岡県の県都静岡市を今回の研修交流先として企画選択の結果、承諾を受け、静岡市文化協会を訪ねました。

ヤマトタケルノミコトに由来する日本平、天女の羽衣伝説の残る三保の松原、東海道の面影を色濃く残す丸子の宿、次郎長で知られる清水の港町、大御所家康公の駿府城と、日本観光百選の名勝と歴史がIPPAYの都市静岡を目指して5月27日(土)早朝7時、高岡会長他役員9名理事17名合計26名出発。静岡市は隣接の清水市と平成17年4月に合併し政令都市として大発展し、文化協会も大同合併して、

大山会長(茶道)の下25団体加盟の大所帯で発足、丁度文化祭開催期間中で多忙の中時間をさいて戴き、静岡市アイセル21集会所にて交流会を実施、静岡側会長以下役員・理事30名と活発な意見交換を致し、相互理解を得られました。

更に文化祭中の駿府城跡内の茶室でのお手前、静岡美術館での絵画展観賞後、静岡浅間神社を拝観し静岡郊外の油山温泉「元湯館」へ車を進め静けさ溢れる宿で長旅の疲れを名湯で癒しました。

翌日は登呂遺跡で弥生時代古代

人の生活形態に触れ、昼食は丸子の名物「丁子屋」にてとろろ汁飯に舌鼓をうち、日本平の景観、久能山東照宮で家康の威光に、三保の松原で羽衣伝説の舞を憶い散策、清水文化センターでの絵画展を観賞後、静岡を後にいたしました。



実 技 講 座

カラオケ実技講座を終わって

歌謡同好会

小 口 守

本年七月八日、二十二日二回にわたり調布市歌謡同好会連盟第八回カラオケ実技講座が実施され大変充実した一時を過しました。

カラオケが庶民に溶け込んでまだ歴史が浅いにもかかわらず、参加者の熱意は大変なものでした。昔はお祭や宴会旅行等で一部の唄好きが手拍子で唄ったものです



が、今はオリジナルカラオケで個人が自由に楽しめる時代です。

演歌は独特な旋律と感情移入で日本人の心を唄うと言われます。

戦後はその心も変わりました。

しかし演歌の神髄は一言一句を美しい日本語で演ずることです。

その最たる点は、鼻濁音、連母音、重母音等正しく発音したいものです。これからも皆様の唄の上達にお役にたてれば幸いです。

(延参加人数63名)

マクラメのミニバッグ

工芸美術協会

矢 崎 正 代

私の人生のかなりの部分を占めていると思う「マクラメ」——一本の紐から様々な物が造り出されるその楽しさを一人でも多くの方にお知らせしたい思いが実技講座で叶えられました。

9月7日・14日・21日の三回で

初心者対象に基礎結びの平結びでミニバッグを作って頂きました。

苦勞された方もいましたが、各々に又70年ぶりという最年長85歳の方も完成され、感動的でした。

募集人数に対して応募者は少なめでしたが、約半数近くの方が引き続きたづくり教室で楽しんで下さっているので少しはお役にたてたのではとほっとしています。

様々な実技講座を通して今の暮らしに彩りや楽しみをみつけて頂くその一つになれば幸いです。

(延参加人数30名)

本年度実施済の実技講座

○デジカメ&ビデオの初級講座

日時 4月18日、19日

講師 黒澤 眞氏

運営 調布映像協会 参加60名

○「気軽に書道」

日時 5月15日、29日

講師 粕谷和子氏

運営 調布市書道連盟
参加52名

○詩吟・初心者のための講座

日時 5月15日、29日、6月5日

講師 鈴木洲玉氏

運営 吟剣詩舞道連盟
参加28名

○初めて弾く大正琴

日時 11月19日、26日

講師 弥富保枝氏

運営 調布市大正琴連盟
参加11名

なお、今後取り上げるものとして実技講座は、将棋連盟の「女性のための将棋入門講座」フラワージと季節テーブルフラワー」調布市ハワイアンフラ協会の「フラダンス&ウクレレ講習会」があり、文化講座として美術協会の「表現について」が予定されています。

「第一回調布学生書道展」

書道連盟 小川みよ子

調布市文化協会の後援を戴き、「第一回調布学生書道展」を開催、盛況の裡に終了できました事、厚く御礼申し上げます。

パソコン等が普及している昨今、学校教育の中では、ゆとり教育も含め、硬筆・毛筆の授業は減少の一途をたどっております。現実、推薦試験や履歴書など「手書き」を要求される事も多くあるのです。このような実情の中、私共書道塾の役割として何か出来ないかと思索しておりました。幸い、書道連盟の中で、意見が一致し、学生を奨励する為の「書道展」の開催となりました。

ご家族で、会場に足を運んで下さった方々のうれしそうな・恥かしそうな・満足そうなお顔……。又調布市長・教育委員会の方々にご

来場いただけました事も励みとなり、毎年開催に努力しようと決意しました。

今後とも、ご支援の程よろしく
お願い申し上げます。



「団塊世代の生涯学習開始!!」

池野潤治

団塊世代の人達が退職後の人生を、文化協会の各種サークル活動に参加していただきながら、地域での豊かなセカンドライフに役立てていただくため、これらの人達を対象にした「団塊世代の生涯学習」を推進することになり、平成十八年度は囲碁連盟と写真連盟により実施することになりました。

既に市民参加推進室でも種々の生涯学習体験講座が実施されておりますが、文化協会としても永年に亘って培ってきた活動の成果をもとに、実施団体の特色をも活かして、新しい仲間作りの一環として推進を図ります。

これからも実技講座・文化講座と合せて更に充実した内容の学習活動に取り組んでまいります。

あとがき

成人式を迎えて、若い人達があるやいなやだ雰囲気の中で、「あとが

き」を書いているのは、今までにないことです。平成十八年度は文化協会創立四十周年記念特別号を発行した関係で通常の会報は年一回となりました。二回分を一回にまとめたために、記事を省略したり短縮しなければならなかったことをお許し下さい。

さて今年懸案であった文化協会のあり様の問題をいよいよ解決しなくてはならない時期になりました。果して文化協会は、調布市で必要とされている団体なのだろうか。もし必要とされているとすれば、どうすれば今以上にファンクションするのだろうか。ホームページぐらい開設しなくてはならないのではないか？ 活力の醸成、経済性、効率性、健全な文化活動を続けるため、市全体とのかかわりの中で文化協会はどうあるべきかなど、詰めなくてはならない問題は多いような気がします。外部も含めた真摯な議論が必要な時点で到達したと考えるべきでしょう。